

190711 特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議 天守閣部会（第19回）
名古屋市民オンブズマンによるメモ

10:00

蜂矢主幹：始める

佐治所長：おはよう

4/25以来の部会

現状変更許可申請、補正予算 報告

18回指摘事項

服部センター所長：4月に就任した ご挨拶が遅くなった

15年以上 文化庁記念物課 文化技官 文化財調査官

九州大学 教育

文化財保護、歴史学

原点は名古屋城 名古屋出身

絵日記

昭和34年 コンクリート天守 金のしゃちほこ 大変な騒ぎ

伊勢湾台風 7号台風

シャチに乗ったとき夜通し見守った

雌、雄の順 さらし 家から望遠鏡でのぞいていた

私の原点は名古屋城

おかげさまで リタイアの年 最後のご奉公

文化財保護法三条 歴史、文化の正しい理解

そうした仕事に従事できることに大変光栄

蜂矢：出席者紹介

事務局紹介

資料の確認

事務局より報告

現状変更許可申請、補正予算について

4/19文化庁提出 5/17諮問、第三調査会審議されたと聞いた

確認事項をいただいた

6/19文化庁に提出

6/21文化審議会 「第三調査会で審議が必要」議題にならなかった

現時点 許可・不許可の結論が出ているわけではない

工期の見直しを含め、竹中、文化庁、天守閣部会・石垣部会など
地元の有識者と協議を進めて参りたい
木材保管庫 予算とりさげ
質問等があればよろしく

10 : 11

蜂矢：よろしいでしょうか
議事について3件

瀬口：説明後ご意見を

名古屋城村木：変状度と危険度の説明

竹中：2以降について説明

瀬口：質問を
全然なにもなければ時間が早く進む
文化庁の石垣に書いてあるように聞こえた
石垣の危険と、構造物の危険は別でしょう？

10 : 19

竹中：木材の仕上げ、飾金具、鬼板について

10 : 30

瀬口：ありがとう 写真分析

川地：仕上げ 柱、長押すばらしい
今の技術でできるのか？
大工の数、どこから大工が集まってきたか 400人近く集まった
天守にどこの大工関わったか
大和の西里、東里、京都の大工さんが関わった
名古屋城が仕上げのレベルは高かったのではないか
大カンナが使われ始めた

大阪城 1592年 細幅カンナが出土された

刃の幅が1寸2部

30ちょっとくらいあるかなあ

竹中：場所によって加工 刃の幅が違う

1寸前後 8部 1寸2部 同じカンナの幅ではない

川地：当時は細幅のカンナしかなかったと理解

麓：調査としては細かいことまで観察 いい

じゃあ大カンナの幅 細幅を使うかどうか

そうすると1枚刃でないといけない 今の大工ができるか？

細かい観察しないとわからない

大カンナ仕上げなら、今の2枚刃カンナで仕上げればよい気がする

4-7 復元案 見え掛かり部 梁等

模様を付けるようなふうはいかにもで困った

梁まで大カンナ仕上げか どこまで昔の技術にするか

短期間で技術を身につける人もいる

2人で引くおがびき 1人で引くおが

そういうものについて、同じ製材でしなくても、

おぎのこの引き幅でもゆるされるかな

乾燥中に狂ってきて、電気がんなかけることも

竹中：先生がご指摘頂いたとおり、おがびき

手前にサンプル のこぎりの状態

丸太梁 腕がいい人を選定して、サンプルを先生に見て頂いて

見えるところを意識して当時のやり方を残していきたい

瀬口：復元原案と復元案

復元原案：部材によって

復元案：見えるか見えないか

今のような質問が出る

それがわかるようにしたほうがよい

どこをどうするのか

最終的に決まる 実施設計をやっている

ご配慮ください

他の隅櫓より仕上げが
写真で見ることの限界 平滑的な指摘 レベルが高いのでは
飾り、金物

10 : 43

竹中：説明する
焼損遺物、奈良文化財研究所の摺本で検討
小天守天井 資料で違い

11 : 12

瀬口：質問を

三浦：六葉5-2 実測図の通りでよい

川地：飾金具 本丸御殿が天守閣の2年後にできた
かつて慶長期の飾金具つくられた京都業者にヒアリング
内部の六葉 消し鍍金
外は漆 金箔を貼る
わかれば教えて

竹中：古くからは消し鍍金
どちらか 建物にくっついていたものは残っていない
分析もできない
御殿と同じように御殿をとらえるか
外部のような漆の箔押しではないと理解

麓：本丸御殿と同じ仕様
水銀の上に金箔 わざわざ書いてあるが、本丸御殿と同じ

川地：ヒアリングしたときは内部は消し鍍金

麓：天守も同じ方法

川地：消し鍍金ではないか

麓：違う、水銀鍍金

川地：消し鍍金と水銀鍍金がある

麓：本丸御殿が正しいとは限らない

先に水銀、
たまたま京都の人がやっただけ
水銀鍍金か漆箔押しか
外部 漆箔押し
内部は水銀鍍金

三浦：写真を検証して頂きありがとうございます

5-6 千鳥破風 少し形が違う

竹中：六葉 座金があるように見える

六葉自体の影が映っている 線は確認
実測図にも図が書いてある
菊座 違いがありそう 写真 すかしがあるのでは？
引き続きもう一度検証を

瀬口：まとめ「図が書いてあるが、もう少し検証を」

麓：本丸御殿のときもそう

慶長期 裏葵の紋 案外不揃い
寛永期 几帳面に作っている
違って作れるか？大変 図を作ってあわせるのは大変

三浦：ごもっとも 一つずつ違って作れ、というのではなく、

年代が違うだけ
決めて1種類にしては

瀬口：また報告を

古阪：これはここの部会 名古屋市、竹中

意志を決めればそれで進むのか

材料

構造形式 通し柱、管柱 実験をする

文化庁に出すのか？そうじゃないのか？

技術的なこと 今の時代と違う

石垣も構造的に危ない 地震直下型 南海東南海 80% 30年以内

復元を元通りにやる

地球変動の時代に どう変えていくか

天守閣部会のやり方 市のやり方は違うのではないか

名古屋市としてどう考えるか

蜂矢：まずは天守閣部会・石垣部会でご議論

どこかで両部会総合して、名古屋市の案として文化庁に提出する

文化庁でご審議頂く

今は名古屋市の案を固める

11：28

瀬口：全体を通してなにか

川地：冒頭文化庁との関係 さらにご説明された

気になるのは、継続審議6/21

普通で行くと9月に審議会開催

市としてどういう見通しを立てているか

今日いただいた、市長のコメント

「今後工程についても見直しを含め関係者と検討する」

工程についての検討されているかと思うが、

本体の変更申請

蜂矢さんお話 石垣部会との合意は難しいのではないか

そうしたときに次の進展について新たな道筋をつけていくか

市の方でどうお考えか

確認 この場を政治の具にするつもりは毛頭ないが、

ある首長が「今の状況が未来永劫解決しない。解体の許可は下りない」と

言い切っている

根拠があるから言っているはず

根拠がなければ問題

市は文化庁からの情報をお隠しにならないと思うが

佐治所長：1点目 工期を含めた状況

議会、委員会の中で答えた 2022年竣工 きわめて困難と答弁

文化庁 今の段階では結論が出ていない

私ども 文化庁を待ちたい

重く受け止め、木造復元をするため、最善の方法を模索

2点目 石垣部会

次回開催を模索

毎回用意させて頂いた議題 建設的な議論

資料作成が遅い 十分に議論ができなかった

入り口部分で終わる 実質的な議論ができなかった

改善したい

3点目 首長の発言

どういう根拠かわからない

文化庁の情報 速やかに公表する

今の段階で継続審議以降 持ち合わせていない

古阪：名古屋城の復元 市議会で否決された

できるだけ早くするわりには、文化庁、石垣部会 スピードが遅い

市民の人 名古屋城にあげられない

きっちりと進めるべくやって頂きたい

私たちも詰めた議論には来ている

すでに2回中止 本来あるべき姿ではない

協力して、早く名古屋城にあげられる日を

小野：石垣部会との合意

私ども 石垣部会の検討 「不十分」だけ入ってくる

なにをどうしたらいいか 具体的なゴールというか

確認すべきではないか

具体的なゴールなく「不十分」ということでは、

名古屋市を含め、納得できないところがある

何でもできる

120パーセントはあり得ない

私の専門 耐震性 120パーセントはできない

現在の技術の中でどこまで確認したらいいか、市として

はっきりさせて頂きたい

この事業を進めていけるように

西形：そう思う

今回、文化庁に答申を出されて、回答があつて

質問 回答を出された

そういうやりとり 内容を

天守閣部会で皆さんが検討して頂いていいのではないか

その内容 石垣部会 どういう見解、反応されているか

村木：文化庁からいただいた確認事項

現状変更申請について、石垣部会、全体整備検討会議の意見を付けた

齟齬があつた

名古屋市はどう考えているか

確認事項をいただいた

部会の意見を聞いて答えた訳ではなく、名古屋市の見解を答えた

部会の先生の意見は聞かなかつた

認識の一致をはからないと行けない

一致をえるために進めているところ

佐治所長：分析の体制が十分でない

石垣部会の指摘 真摯に受け止めて調査する

この間数多くの調査をした

説明して、正確に理解していただいているわけではない

具体的な助言と提案 一定の期限を示してやる

瀬口：ほかには

新しい所長努力 認識の違いが一番問題

調査は手段

認識を一致 認識の違いというのはどういうものか

村木：認識の違い

- ・石垣の現状把握 どこまで調査すべきか
- ・把握した上で、どういう風に修復保全進めるのか

天守閣の整備の順番

調査が必要かは合意したい

修理 何をするのが優先か 合意が必要だと考える

瀬口：とっても時間がかかる作業

三浦：天守閣の台座の石垣は重要

石垣部会から言ってきた案を天守閣部会で意見が言える体制を

佐治所長：ふまえて考える

瀬口：洲崎さん意見はありますか？

県の見解も重要

蜂矢：ありがとう

終了

11：44